

令和5年度 学校図書館の機能を有効活用した 授業実践報告集



湖南省教育委員会

「令和5年度 湖南省学校図書館の機能を有効活用した授業実践報告集」

目次

ページ	学校名	学年	教科等	単元名（または教材名・分野等）
1	石部小	4年	社会科	自然災害
2	石部南小	2年	国語科	「くさ花のちえ」クイズをつくろう！
3	三雲小	2年	国語科	主人公と自分を比べて読み、感想を友だちに伝えよう
4	三雲東小	1年	国語科	のりものカルタですごいをつたえよう
5	岩根小	2年	国語科	お気に入りの本をしょうかいしよう
6	菩提寺小	1年	国語科	じどう車くらべ
7	菩提寺北小	1年	国語科	かくれんぼカードをつくろう！
8	下田小	3年	国語科	食べ物のひみつを教えます
9	水戸小	3年	国語科	食べ物のひみつを教えます
10	石部中	3年	国語科	「おくの細道」で詠まれた句を調べる
11	甲西中	1年 3年	国語科	さまざまな本に触れ、読書に親しむ
12	甲西北中	2年	国語科	ビブリオバトルをしてみよう
13	日枝中	3年	技術・家庭科 (家庭分野)	保育「幼児の発達」

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

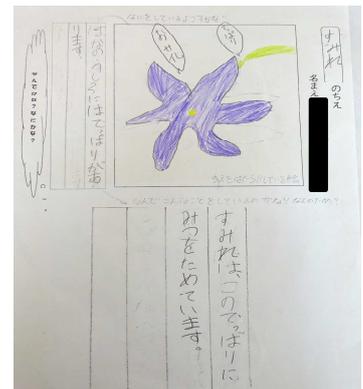
湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（石部小）学校

報告者（臼谷 允里）

教科・単元名	4年生 社会科 自然災害		
授業者氏名	臼谷 允里、宮木 理恵（学校司書）		
授業実践期日	9月4日～9月26日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	自然災害について興味を持ち、災害の種類や防災についての知識を得る	
	② 図書館の機能を活用するねらい	さまざまな本から災害に関する情報やその対策に関する情報を集められる。	
冊数	22冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然災害について知っていることをみんなで確認しよう。 2. 過去に湖南省で発生した災害を知ろう。 3. 災害の被害を減らすための機関について知ろう。（県） 4. 災害の被害を減らすための機関について知ろう。（市） 5. 地域の人々がされている防災対策について知ろう。（地域） 6. 防災について自分たちにできることは何かを調べよう。 学校司書と事前打合せをし、災害について書かれている本を集めた。 災害の種類を知ることができるものや、災害前、災害時、災害後にできることが書かれているものを集めた。 7. 地域のハザードマップを見ながら避難ルートなどを確認しよう。 8. マイタイムラインを作ろう。 9. 防災対策室の方に質問したいことを出し合おう。 10. 防災対策室の方からお話を聞いたり、質問したりしよう。 11. 話を聞いて学んだことをまとめよう。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・本実践のアピールポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと 	<p>自然災害について、絵や図がある本を中心に興味をもって読む姿が見られた。廊下にブックトラックを並べておいたので、朝読書で読んだり、自主学習で災害についてまとめたりすることができた。</p> <p>防災について何をすればよいのかについて書かれた本が人気で、「家でできることはやってみよう。」や「お家の人に話して防災グッズを買いに行こうかな。」など実践しようとしている子どもの発言があった。</p> <p>また、防災や災害について疑問に思ったことを進んで調べようとするなど意欲的に学習する子どもが増えた。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・次回実践時に気を付けたいポイント 	<p>ブックトラックを廊下に置いておき、授業中は教室に入れて、読みたい人は手に取って読んでもよいというスタイルで本を活用したので、1人1台端末で調べてばかりで本を手にとらなかった子どもがいた。</p> <p>また、じっくりと本を読む時間が作れなかったため、授業の中で読む時間をしっかり確保できれば、より子どもたちが災害対策について知る機会を生み出せた。</p> <p>災害についての用語の漢字が読めない子どもがいたため、みやすくする手立てが必要であった。</p> <p>もともと本を読むことが身近でなく苦手な子どもにも、ブックトークをするなどして本を手にとって読みたくなる工夫が必要であった。</p>		

<p>教科・単元名</p>	<p>2年生 国語科 「くさ花のちえ」クイズをつくろう！ 教材『たんぼぼのちえ』</p>		
<p>授業者氏名</p>	<p>内田 愛里、 嶋村 太清、 長谷 由記子（学校司書）</p>		
<p>授業実践期日</p>	<p>5月 18日 ～ 5月 30日</p>		
<p>ねらい</p>	<p>① 単元・本時のねらい</p>	<p>時間の順序や理由を表す言葉に着目し、順序の関係を捉えたり、様子とそのわけを考えたりしながら説明的な文章を読むことができる。</p>	
<p>ねらい</p>	<p>② 図書館の機能を活用するねらい</p>	<p>教材『たんぼぼのちえ』で学んだ、順序や理由に気を付けて読む方法を生かして、他の草花のちえについて書かれた本を読み、「くさ花のちえ」クイズを作ることができる。</p>	
<p>冊数</p>	<p>28冊</p>	<p>学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください</p>	<p>○</p>
<p>・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫 （図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）</p>	<p>【事前の打ち合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいと学習の流れを確認する。 ・学校司書が適切な本をリストアップし、授業者が最終確認する。 ・ブックトークのポイントと流れを確認する。 <p>【選書のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草花の生長や特徴について、順序立てて書かれてあり、理由が分かりやすく説明されている。 ・絵や図、写真等が載っており、草花の様子がイメージしやすい。 <p>【学習の流れ】</p> <p>第一次</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業者自作の「たんぼぼのちえ」クイズを聞き、答える。 つけたい力を確認する。＝順序や理由に気を付けて読む。 学習計画を立てる。 ②学校司書のブックトークを聞く。 並行読書をスタートする。 <p>第二次</p> <ol style="list-style-type: none"> ③④⑤⑥ ・『たんぼぼのちえ』を読み、三つのちえを見つける。 ・見つけたちえを、順序立ててまとめ、その理由を確認する。 ⑦三つのちえの中からクイズにしたいものを選んで、「たんぼぼのちえ」クイズを作る。 <p>※単元を通して…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行読書教材を通して、クイズにしてみたい草花を選ぶ。 <p>第三次</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑧クイズにしてみたい草花の本を読み、「ちえ」とその理由について読み取る。 ⑨「くさ花のちえ」クイズを作る。 ⑩友だちとクイズを出し合う。 ⑪単元のふり返しを行う。 		
<p>本実践の アピール ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいったこと ・効果があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん本から自分のお気に入りの草花を選ぶことで、児童の意欲が高まった。 ・草花のちえとその理由を探すという目的意識をもって、何度も本を読み返す姿が見られた。図鑑のような「写真と解説」ではなく、草花の生長が順序だてて書かれているものを選書したことが、読む力を身に付けるのに有効だった。 		
<p>次回実践時に 気を付けたい ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で「理由」を探すことが難しい児童もいた。児童の発達段階では「理由」だと判断しにくい表現で書かれている本も含まれていた。今後は、それぞれの本に合わせて、理由を見つけるポイントやヒントを与えてやるとよいと感じた。 		



R5年度
 湖南省
 学校図書館の機能を有効活用した
 授業実践報告

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（三雲小）学校

報告者（奥村 絵理）

教科・単元名	2年生 国語科 「主人公と自分を比べて読み、感想を友だちに伝えよう」
授業者氏名	奥村 絵理、 谷口 愛（学校司書）
授業実践期日	11月29日 ～ 12月14日
ねらい	本の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
冊数	8種類の本を、それぞれ4～6冊ずつ（合計47冊）
単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりも含む）	<p>【事前打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが体験したことがありそうな内容の本を学校司書と授業者で選書した。 <p>【単元計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「似ている・ちがう・ふしぎ」の3観点から、初発の感想をもつ。 ②初発の感想をもとに、学習計画を立てる。 ③同年代が主人公の物語を知る。（ブックトーク） ④～⑥文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想を書く。 （「似ている・ちがう・ふしぎ」の3観点で、感想を書く） ⑦すみれちゃんと自分を比べて読み、 友達に伝えたい場面を選び、感想を書く。 ⑧友だちと自分の感想を比べて、読む。 ⑨同年代が主人公の物語を自分と比べながら 読み、「似ている・ちがう・ふしぎ」と思う 場面を決める。 ⑩同年代が主人公の物語を自分と比べながら 読み、感想を書く。 ⑪友だちと自分の感想を比べて、読む。 ⑫学習を振り返る。 <p>【指導の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主人公と自分を比べながら読めるよう、「似ている・ちがう・ふしぎ」の3観点で、感想を書くことを「わたしはおねえさん」から取り入れた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>選書リスト</p> <p>「わたし、わすれものがおおいです」 「ジャックのどきどきモンスター」 「かあさんのしっぽぼぼ」 「ぼく、おこられてん」 「せかいでいちばんママがすき」 「ひとりでおとまり」 「だいじょうぶ だいじょうぶ」 「ともだちやもんな、ぼくら」</p> </div>
成果	<ul style="list-style-type: none"> 今回、子どもたちがより本の内容に注目できるように、8冊すべての本を担当と学校司書が読み聞かせを行った。そのおかげで、本の内容に注目し、主人公と自分を比べて感想を書く子が多くいた。 単元を通して、「似ている・ちがう・ふしぎ」の3観点で、感想を書くことを行ったため、自分で選んだ本でも3観点に着目して感想をもつことに抵抗がなかった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもたちにどんな力をつけたいか」を授業者が明確にしたことで、より子どもたちに合う本を選ぶことができると感じた。授業者と学校司書が打ち合わせをする時間を確保することは難しいが、研究授業をきっかけにして、子どもたちに合った選書リストが作れるようにしていきたい。

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（三雲東小）学校

報告者（森本 歩美）

教科・単元名	1年生 国語科 のりものカルタですごいをつたえよう 教材『じどう車くらべ』		
授業者氏名	梅本 葵、 谷口 愛（学校司書）		
授業実践期日	12月1日 ～ 15日		
ねらい	① 単元・本時の ねらい	のりものカルタを作るために、仕事とつくりを見つけて読み札をもとにすごいところに着目することができる。	
	② 図書館の機能を 活用するねらい	教科書教材で読み解いた「仕事」と「つくり」の書き方をもとに、自分が興味のある乗り物のカルタの読み札をつくることことができる。	
冊数	30冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	○
・学習のながれ ・単元の工夫及び 指導の工夫（図書 館教育担当・学校 司書等の関わりを 含む）	1. ブックトークから単元の見直しをもつ。 2. 『じどう車くらべ』の「乗用車・バス」の記述から、「仕事」と「つくり」の 見つけ方が分かる。 3. 『じどう車くらべ』の「トラック」の「仕事」と「つくり」をとらえ、読み 札の書き方が分かる。 4. 図鑑を使ってトラックのすごいポイントを見つけて、カードに書く。 5. 順序や必要な情報を考えて、クレーン車でカルタの読み札とすごいぞカード を作る。 6. 自分の選んだ車でカルタの読み札を作り、すごいポイントを見つける。 7. ★必要な情報を本や図鑑から選び、すごいぞカードを完成させる。 8. すごいぞレベル1、2ののりものでも、おなじように読み札をつくる。 9. すごいぞレベル1、2ののりものでカルタを作る。 10. レベル3ののりものカルタをクラスみんなに紹介する。 11. 文をよく聞いて、みんなが作ったのりものカルタで遊ぶ。		
	毎時間、前半で教科書教材、後半で並行読書を行 うという流れで行った。 ブックトークでは、学校司書が乗り物のフラ ッシカードを使って、ストーリー形式で待ちの 中にある乗り物を紹介することで子どもたちの 興味を高めた。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・言語活動に設定したカルタの魅力 カルタなので必然的に読む必要がある。そのため、子どもたちはできあがった 成果物を何度も読むので自分が書いた文章の間違いにすぐに気がつくことができ た。また、カルタの活動を通して、自分が選んだ乗り物だけでなく、他の友達の 乗り物の「仕事」や「つくり」にも目を向けることができた。 ・「すごいポイント」による意欲の向上 みんなに知って欲しい事柄が「すごいポイント」になるので、子どもたちの 「みんなに知らせたい」という思いを高めることにつながった。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・「仕事」に関係している「つくり」を図鑑の中のたくさんの記述の中から見 つけることに子どもたちは苦戦していた。どうしても、子どもたちの興味は視覚か らの情報になるので、図鑑に書かれていることをじっくりと読み、理解する 時間の確保が必要である。 ・図鑑に書かれている事から必要な情報を探し出すことが容易であったが、文末 の書き換えが1年生にとっては難しかった。文末の書き換えが不要な図鑑にしぼる ことが必要である。		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（岩根小）学校
 報告者（楠田 睦美）

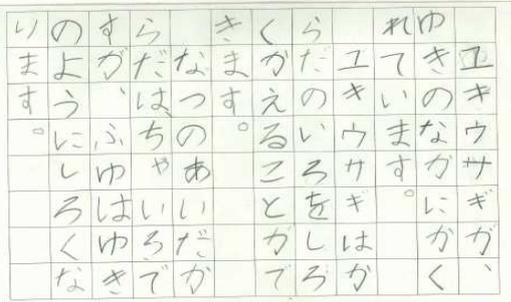
教科・単元名	2年生 国語科 「お気に入りの本をしょうかいしよう」		
授業者氏名	戸上 沙紀、 島田 麻子（学校司書）		
授業実践期日	7月3日 ～ 7日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 お気に入りの本を伝え合う活動を通して、読書に親しむ。 	
	② 図書館の機能を活用するねらい	<ul style="list-style-type: none"> 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 	
冊数	20冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	
<ul style="list-style-type: none"> 学習のながれ 単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む） 	<p>【事前打ち合わせ・事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいや単元構想を確認する。 児童がお気に入りの本として選んだ本を学級に置く。 <p>【学習の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「ミリーのすてきなぼうし」を読み、しょうかいメモ、しょうかいカードを書く。 自分が紹介したいお気に入りの本を選ぶ。 選んだ本のしょうかいメモを書く。 しょうかいメモをもとに、しょうかいカードを書く。 友だちとしょうかいカードを見せながら、お気に入りの本を交流する。 しょうかいカードは、教室の後ろに掲示する。お気に入りの本もセットで置いておき、いつでも友だちが選んだ本を読むことができるようにする。 		
			
<p>本実践の アピール ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> うまくいったこと 効果があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が選んだ本なので、意欲的に学習に取り組むことができた。 教師が単元の最初に絵本の読み聞かせを行い、その本で使った紹介カードを提示することで、見通しをもって学習に取り組むことができた。 友だちが紹介した本を読んだら、一覧表にシールを貼るようにしたので、意欲的に取り組む子どもが多かった。 教室の後ろに紹介カードとともに本を置くことで、気軽に読書に取り組むことができた。また、読書をした後、おすすめした友だちに「〇〇の本読んだよ」と進んで交流する姿が見られた。 		
<p>次回実践時に 気を付けたい ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が選ぶので、ページ数が多い小説等を選んだ児童は、本を最後まで読み切れなかった。今回は、学校司書と連携して学習活動に適した本をピックアップしたい。図書室の本から自由に選ばせる場合は、本選びのポイントを事前に明確に示すことで、子どもが学習活動に適した本を選べるようにしたい。 絵本の中には読みやすいが内容が少なかったり、長編小説などでは情報量が多すぎたりしたため、紹介文を書くにあたって本の内容をまとめるのが難しい様子が見られた。今後は「紹介カード」のパターンを複数準備し、子どもが自分に合う形式を選択できるようにしてみたい。また、この取り組みを継続することで、子どもの紹介文を書く経験を積み上げたい。 		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（菩提寺小）学校
 報告者（村野 優希）

教科・単元名	1年生 国語科 「じどう車くらべ」		
授業者氏名	大澤 輝、 宮野 永里雅、 岩碓 明子（学校司書）		
授業実践期日	12月		
ねらい	① 単元・本時の ねらい	「じどう車くらべ」での学習をいかして、文章の中から必要な語や文を選んで「じどう車ずかん」をつくることができる。	
	② 図書館の機能を 活用するねらい	・教科書教材での学びを活用して、自分が選んだ自動車の図鑑をつくることができる。	
冊数	20冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む） 	<p>〈事前〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車やその働きを紹介している本について学校司書がブックトークをした。 <p>〈学習の流れ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「じどう車くらべ」の読み取り ②教科書を読んで、図鑑をつくる練習をする。 ③自分の好きな自動車を選び、「しごと・つくり」に分けて図鑑をつくる。 ③できたものを一つの図鑑にまとめ、図書室に展示する。 <p>〈指導の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の一部を写真に撮って、オクリンク（学習支援ソフト）でカードにしたことで、たくさんの自動車を見比べて好きなものを選べるようにした。 		
	 		
本実践の アピール ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいったこと ・効果があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書のブックトークで学習への意欲が高まり、『じどう車くらべ』の読み取りにも役立った。 ・オクリンクを使って、複数の自動車から選ぶことができたので、自分の思いを持って図鑑を作成できた。 ・他にももっと図鑑を作りたいと、2枚目3枚目に挑戦する子も多く見られた。 		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	<p>今回、しごと・つくりがはっきり分かれて書かれている巻末の内容をもとに図鑑を作ったため、自分で本の中から必要な内容を探し出すという活動が不十分であった。次回行う際は、1枚目は巻末のカードを使い、2枚目は自分で本の中から必要な内容を見つけ出すというような学習の流れにするとよりよい実践となると思う。</p>		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

教科・単元名	1年生 国語科 かくれんぼカードをつくろう！ 教材『うみのかくれんぼ』		
授業者氏名	木津 加奈子、大森 千津（学校司書）		
授業実践期日	9月25日 ～ 10月6日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	教材『うみのかくれんぼ』で学んだ、文章の組み立て（生き物・場所、体の特徴、隠れ方）に気を付けたり重要な語や文を選ぶ力をつかったりして、他の生き物の隠れ方について書かれた本を読み、かくれんぼカードを作ることができる。	
冊数	30冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	○
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【事前の打ち合わせ】 ・授業のねらいと学習の流れを学校司書と確認する。 ・学校司書が適切な本をリストアップし、授業者が選書する。 ・ブックトークの流れを打ち合わせする。 【選書のポイント】 ・生き物の隠れ場所や隠れ方について、教科書に似た書かれ方になっている。 ・隠れている写真が載っている。 【学習の流れ】 第一次 ①授業者自作の「かくれんぼクイズ」を聞き、興味関心を持たせる。 ②学校司書のブックトークを聞く。並行読書をスタートする。 ③つけたい力・学習の出口を確認する。 学習計画を立てる。 第二次 ④⑤⑥・問いと答えの関係性をつかむ。 ・『うみのかくれんぼ』を読み、三つの生き物から文章の構成をつかむ。 ※単元を通して… ・並行読書教材をとおして、クイズにしてみたい生き物の読書記録をつける。 第三次 ⑦⑧・読書記録をもとに、クイズにしたい生き物を選ぶ。 ・生き物クイズをつくる。 ⑨学習のふりかえりをする。		
	 		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・「かくれんぼクイズ」やブックトークをすることで、前のめりに学習に取り組む姿が見られた。また、学習の出口を提示したことで最後まで目的意識をもって学習に向かう姿も見られた。 ・たくさん本から自分のお気に入りの生き物を選ぶことで、子どもの学習意欲が高まった。 ・教科書に似た文章構成の本を選書したことで、クイズの制作もスムーズに行うことができた。 ・読書記録を付けたことで、子どもたちもクイズにしたい本を選びやすかった。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・自分の力で「隠れ方」「体のつくり」を探ることが難しい子どももいた。教科書で色分けしたことを思い出して色分けをすると見つけられる子どももいた。 ・重要な語はわかったが重要な文を見つけるときに、どこまで文章を抜き出せばよいかについて難しさを感じ、困っている子どもがいた。キーワードとなる語や文のまとまりについて今後の学習で意識させたい。		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（下田小）学校

報告者（今宿 真奈美）

教科・単元名	3年生 国語科 食べ物のひみつを教えます 教材『すがたをかえる大豆』		
授業者氏名	今宿 真奈美、亀田 美菜子（学校司書）		
授業実践期日	11月20日 ～ 12月6日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	教材『すがたをかえる大豆』で学んだ、文章の組み立て（はじめ・場中・終わり）に気を付けたり、叙述を基に捉える力をつけて、他の材料についての本を読み、すがたをかえる食べ物について報告する文章を書くことができる。	
冊数	41冊	学習成果物	※ 図書流通システムで活用ください
・学習のながれ ・単元の工夫及び 指導の工夫（図書館 教育担当・学校 司書等の関わりを 含む）	【事前打ち合わせ・事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書と授業者が授業のねらいや単元構想を共通理解する。 ・並行読書ができるように、すがたをかえる食べ物についての本を学校司書が用意する。 ・選書した本を図書用移動トラックに並べ、配架する。 【学習の流れ】 第一次 ①学校司書によるブックトーク 身の回りの食品に関するブックトークを行う。 工夫・・・三食の例をもとに使われている食材は何か問いかけてからブックトークをすること。 米粉、小麦粉、大豆粉の実物とそれぞれを原料に作られたクッキーを見せることで 児童の興味関心を引きつけること。 ※並行読書スタート。読書記録をつけながら、説明文を書きたい「すがたをかえる食べ物」を選ぶ。 ②単元計画を立て、単元の見通しを持つ。 第二次 ③『すがたをかえる大豆』を読み、「はじめ」「中」「終わり」の文章の構成をつかみ、説明文の書き方を学ぶ。 ④『すがたをかえる大豆』を読み、「はじめ」の書き方を学ぶ。 ⑤『すがたをかえる大豆』を読み、「中」の書き方を学ぶ。 ⑥『すがたをかえる大豆』を読み、「終わり」の書き方を学ぶ。 第三次 ⑦⑧⑨読書記録をもとに、説明文を書きたい「すがたをかえる食べ物」を選ぶ。第二次で学習したことを生かしながら、説明文を書く。 ⑩仲間の説明文を読み合い、感想を交流して、説明文の文章の構成やわかりやすい文章について理解を深める。		
	本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書によるブックトークや三食の写真をもとに原料を想像する活動が、児童の意欲向上に非常に効果的であった。給食中に、すがたをかえている食べ物について話すようになった。 ・並行読書の取組において、図書用移動トラックの前に名簿を掲示し、感じたことを色分けしてシールを貼るようにした。自分自身や仲間がどのような本を読み、どのように感じているか視覚的にわかることで、児童の意欲向上につながった。（例「赤色：おもしろかった」「青色：知らなかった」「緑色：知ってた」「黄色：説明文を書いてみたい」） ・調べたことをふせんに書き込み、「はじめ」「中」「終わり」と3分割したワークシートに貼るようにした。その結果、児童は文章にしたときのことを考えて順番を入れ替えたり、吟味したりすることができた。その後の説明文の文章を書く活動にスムーズに取り組むことができた。 	
次回実践時に 気を付けたい ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を取捨選択しながら読むことにつまずきが見られた。作り方についてまとめた後、すがたをかえた後の食品名や作り方を説明できるようなワークシートを作成し、「～というくふうがあります。」の文を先に見つけ出すことで、必要な情報を捉える力が高まるであろう。 		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（ 水戸小 ）学校
 報告者 （ 谷口 佳澄 ）

教科・単元名	3年生 国語科 食べ物のひみつを教えます		
授業者氏名	谷口 佳澄、下村 晃土、亀田 美菜子（学校司書）		
授業実践期日	11月15日～24日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	事例を挙げながら表現を工夫して文章を書くことができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	文章を書く目的を意識して情報を収集し、集めた情報を比較したり分類したりして、整理する。	
冊数	33冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	○
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【事前打ち合わせ・準備（担任・学校司書）】 学習のねらいと単元構想を共通理解した上で、学習課題に適した選書ができるよう、学校司書が図書の配架整理を行った。		
	【学習の流れ】 （1次）①学習課題をつかむ。 （2次）②③調べたい材料を選び、どんな食品に姿を変えているか調べる。（学校司書によるブックトーク） （3次）④～⑥文章の組み立てを考え、説明する文章を書く。 ⑦文章を友達と読み合い、感想を伝え合う。		
			
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・教科書と同じ形式で紹介されている本のシリーズをそろえることで、必要な情報の収集や集めた情報の整理がしやすかった。 ・学校司書によるブックトークで、変身する食べ物への関心が高まった。また、本の構成を知ることができ、調べる際に、目的のページを見つけやすくなった。 ・互いに読み合う活動を通して、友だちの選んだ食材への関心も生まれ、他の本への読書意欲につながった。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・同シリーズを複数用意するために学校図書館図書流通システムを利用する場合、他校と時期が重なると貸出不可となるので、実施時期を検討する。 ・単元初めのブックトークで学校司書との連携を図ったが、ブックトークだけでなく、調べ学習の段階でも、本を使った調べ方の指導で学校司書との連携を図れば、さらに学習の理解が深まったように思う。		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（石部中）学校

報告者（宇氣 早苗）

教科・単元名	3年生 国語科 「夏草～『おくの細道』より」 「おくの細道」で詠まれた句を調べる		
授業者氏名	西尾 さやか、上田 由季子（学校司書）		
授業実践期日	12月8日		
ねらい	① 単元・本時の ねらい	句を調べまとめることにより、松尾芭蕉の人物像にふれる。	
	② 図書館の機能を 活用するねらい	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が興味関心を持って、調べやすい多くの書籍を集めることができる。 学校司書のナビゲートにより必要な情報をみつけやすい。 	
冊数	80冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	<input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> 学習のながれ 単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む） 	<p>「夏草～『おくの細道』より」を学習後</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校司書によるブックトーク 「湖南省や近江にゆかりの芭蕉の句について」（湖南省に残る芭蕉の句、終焉の句、お墓の紹介） 芭蕉の俳句で旅気分！？～「おくの細道」俳句調べ～ <input type="radio"/> 教科書外の「おくの細道」で詠まれた一句を調べる <input type="radio"/> 現代語訳、季語、表現技法、自分の感想 <input type="radio"/> 本で調べるときは <ul style="list-style-type: none"> 出典を見る 句の解説に、「芭蕉は『おくの細道』の旅の途中・・・」とある ～県～寺など、おくの細道の行程と重なる記述があることを確認する。判断材料がない場合もあるので、複数の本を調べる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
本実践の アピール ポイント <ul style="list-style-type: none"> うまくいったこと 効果があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書によるブックトークで湖南省に残る句を紹介したことにより、課題が身近に感じられ学習意欲が高まった。 調べる時間を30分確保することにより、全員が時間内にまとめられた。 ワークシートに活用した本の情報を明記する欄があり、出典等を確認する必要性を実感できた。 多くの書籍が用意され、複数の本で確認することができた。 教科書「おくの細道」学習後に設定したので、芭蕉の状況が分かっており句の読解につながられた。 		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 句によっては季語の見分け方、季節の決定がむづかしいものがある。 「おくの細道」で作られた芭蕉の句が全て載ったプリントを班に1冊準備しておくとして活用しやすい。（『おくの細道』高橋治 講談社） 収録語数が多い季語辞典、歳時記を用意する。 		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（甲西中）学校

報告者（藤嶋 侑子）

教科・単元名	1, 3年生 国語科 「さまざまな本に触れ、読書に親しむ」		
授業者氏名	1年生：国語科(窪田)、岩崎(学校司書) 3年生：国語科(松永)、学級担任（西澤、本郷、藤井）、岩崎（学校司書）		
授業実践期日	7月5日(1-3、1-1)、7月6日(3-3、1-2)、 7月7日(3-1、3-4)、7月10日(1-4、3-2)		
ねらい	① 単元・本時の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなジャンルの本に触れ、読書の幅を広げる。 ・読書感想文の本を選ぶ。 	
	② 図書館の機能を 活用するねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなジャンルの本に触れることで、自分では読まな かった本も「読みたくなる」ようになる。 	
冊数	自校150冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習のながれ ・単元の工夫及び 指導の工夫（図書 館教育担当・学校 司書等の関わりを 含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日枝中学校の取り組みを活用させていただき、「ブックウォーク」を1, 3年生に行った。 ・まず学校司書から、取り組みの流れ、取り組みの理由、この時間の目標を伝える。（特に、3年生は受験を控えておりどうしても読書離れが起こりやすい。読書と入試の関わりを説明した。） ・その後、机にグループごとに座り、机においてある本を1冊、5分間読む。 ・感想をシートに記入する。 ・机を移動して、また別の本を5分間読む。 ※これを5回ほどくりかえす。 ・最後に、10分間ほどとり、読書感想文の本を選ぶ時間をとる。 		
本実践の アピール ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいったこと ・効果があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・5分間読むということで、気負わずに読むことができ、みんな静かに読むことができた。 ・5分間読むことで、「もっと読みたい」と思う生徒が多く、その後の貸し出しでは、ブックウォークに使った本が、たくさん借りられた。 ・学校司書が、いろいろなジャンルから本を選んだので、生徒が幅広いジャンルの本に目を通すことができた。「こんな本、前やったら絶対読んでなかったけど、続きが気になるから借りていく。勉強の合間に読む」という生徒の声が多く聞かれた。 ・用意した本の中に絵本を入れたことが、本を読むことが苦手な生徒や外国にルーツのある生徒にとって、とてもよかった。 		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し計画的に取り組み、「読書の意義」を明確にし、生徒に伝えられるとよかった。 ・担任や国語科以外の先生の選書も取り入れると、より読書の幅が広がるかもしれない。 ・「この時期にはこの取組がある」と年間のイベントとして定着すると、教員も生徒も心づもりができて取り組みやすくなる。 		

湖南省 学校図書館の機能を有効活用した授業実践報告

湖南省立（甲西北中）学校

報告者（渡邊 直也）

教科・単元名	2年生 国語科 ビブリオバトルをしてみよう		
授業者氏名	渡邊 直也、上田 由季子(学校司書)		
授業実践期日	6月20日～7月14日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分が今まで触れていないジャンルの本との出会いを増やす。 紹介する本を魅力的に伝える文章を考える。 	
	② 図書館の機能を活用するねらい	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が多くの本と出会う機会を増やす。 学校司書との協力により、一人ひとりの生徒がビブリオバトルでおすすめの本を見つけるように支援する。 	
冊数	153冊	学習成果物	※ 図書流通システムで活用ください
<ul style="list-style-type: none"> 学習のながれ 単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む） 	<p>◎学習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ビブリオバトルの説明—紹介する本の決定 ★教員と学校司書によるビブリオバトルを実演 オクリンクにより、作文の作成—魅力的な文章のつくりかた 文章作成—完成まで ビブリオバトル本番 <p>◎単元の工夫及び指導の工夫</p> <p>【文章の推敲】 600字～800字の紹介文をタブレットを用いて入力することで、作文を書くことへの苦手意識を小さくすることができた。生徒は、文章を書いたり消したりするなど試行錯誤をスムーズに行うことができ、文章を十分に推敲することができた。また、絵本のようなボリュームの少ない本でも、600字程度なら文章を書くことができたので、字数設定も適切だった。</p> <p>【選書】 事前に学校司書と授業者で選書を行い、その段階で絵本やアニメのノベライズの紹介も可としたことで、読書が苦手な生徒でも進んで取り組めた。</p> <p>【学校司書の関わり】 自分で本を選ぶことができない生徒に対して、学校司書との協力により、一人ひとりの生徒の興味がありそうな本を提案した。また、生徒が以前に読んだがタイトルが思い出せない本について、生徒との対話を通して探し当てたり、ビブリオバトル本番の質問の時間に生徒とは違った視点で質問をしたりした。</p>		
	<p>本実践の アピール ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> うまくいったこと 効果があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が今まで読んだことのないジャンルの本と出会うことができた。また、普段あまり読書をしていない生徒が「1日でこっだけ読んだ。」と報告にきてくれた。例年より、夏休みの本の貸し出し冊数も多く、読書に興味を持つ生徒が増えたと実感した。 タブレットで文章を作成することにより、ほとんどの生徒が集中して文章の作成、推敲ができていた。 委員会とは違い、十分な作業時間を確保ができたことで、生徒は本を熟読し、内容を深く読めていた。学校司書からの鋭い質問に対しても、自分の言葉で返答できていた。 	
<p>次回実践時に 気を付けたい ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何人か作成した文章のデータが消えてしまい、やる気をなくしてしまった生徒がいた。データの管理を二重にすればよかった。 ビブリオバトル本番は6人班での発表にしたが、一部うまく発表できない生徒がいた。すべての班が同時進行するので、サポートできない生徒もいた。班の中での発表方法(サポートできない生徒への支援など)と、クラスの前に立っての発表方法の検討が必要だと思う。 		

R5年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（日枝中）学校

報告者（國領 信一）

教科・単元名	3年生 技術・家庭科（家庭分野） 保育「幼児の発達」		
授業者氏名	藤川 典子、木村 淳子（学校司書）、向久保 恵美（ゲストティーチャー）		
授業実践期日	11月27日（3-1）、11月30日（3-3）、12月4日（3-2）		
ねらい	① 単元・本時の ねらい	・ 幼児に読み聞かせをする意義を理解させる。	
	② 図書館の機能を 活用するねらい	・ 幼児の発達に応じた絵本を紹介し、各自で読み聞かせを体験させる。	
冊数	自校分118冊、他校分35冊、 その他47冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のながれ ・ 単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湖南省で子育てアドバイザーをされている方を講師に迎え、湖南省で取り組んでいるブックスタートの話やなぜ読み聞かせがいいのかについて具体的に話をしてもらった。 ・ 幼児の年齢ごとにおすすめの絵本を紹介するとともに、200冊ほどの絵本を図書室に展示し、生徒に自由に閲覧させた。 ・ 読み聞かせるときのポイントを知らせ、講師に実際に絵本を読み聞かせてもらい、具体的な読み聞かせのイメージが持てるようにした。 ・ 全員が1冊以上絵本を選び、4人グループの中で互いに読み聞かせを体験した。 		
本実践の アピール ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ うまくいったこと ・ 効果があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の体験前に授業者が家庭科の授業で、絵本の読み聞かせを行ったので、生徒が図書室に来る前に目的意識と学習の見通しを持つことができた。 ・ 読み聞かせを聞くことはあっても、実際にやってみる体験は初めての生徒が多かったが、お手本を見てからだったので、イメージが持ちやすく、相手の反応を見ながら工夫して読めていた。 ・ 「楽しかった」「なつかしかった」「自分の妹や親戚の子に読んであげたい」などの感想のほか、「年齢によって本の役割が違うと知った」「0歳から絵本を手渡すと知って驚いた」などの感想も多く、幼児の発達に絵本が果たす役割についての理解が深まった。 ・ 生徒にとっては、対象年齢別に絵本が準備されていたので、絵本を通して幼児の特性を年齢別に実感し、また、授業で学習したことを裏付けることができた。 		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は実現できなかったが、実際に幼児に読み聞かせる体験が持てると、さらに学習が深まると思われる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

**令和5年度
学校図書館の機能を有効活用した授業実践報告集**

発行日 令和6年3月
編集発行 湖南省教育委員会